

(政務活動費用)

(様式1)

出張報告書

平成29年5月30日

釧路市議会議員 渡辺 慶藏 様

会派名 新創クラブ

代表者名 畑中 優周



次のとおり、政務活動費による出張を終えましたので報告します。

受命者	畑中 優周 大越 拓也
出張先	広島県広島市、徳島県神山町
期間	平成29年5月22日 ～ 平成29年5月25日 (4日間)
用務	行政視察及び研修
調査(研修)結果等の概要	別紙参照
備考	

- 注) 1 資料等がある場合、添付すること。資料は、事務局経由で会派へ返却するので、本出張報告書(原本)とともに会派で保管すること。
- 2 調査結果等の概要は、別紙による記載も認める。

バスロケーションシステムについて

視察日：平成 29 年 5 月 23 日（火）

視察地：広島県広島市

視察担当者： 公益財団法人広島県バス協会 中国バス協会 専務理事 西川 雅己 氏
" 事務局長 山岡 弘和 氏
広島電鉄バス事業本部 バス企画部業務課 諏訪 正浩 氏
株式会社タウンクリエーション 代表取締役 前 紅三子 氏

視察参加者：畑中 優周 大越 拓也（文責）

広島県公共交通ネットワーク情報提供・移動活発化推進事業として、平成 24 年度には、県内全路線の検索が可能、県内の乗り換え課題を検討抽出、各種交通モードの連携体制を構築。平成 25 年度には、乗り換え検索情報に観光情報やイベント情報等の地域情報をリンクさせ、移動の活発化や移動の多様化を促進。データ分析で抽出した特に待ち時間が長いポイントのダイヤ改正、携帯端末への乗り換え検索とリンクしたバスの走行位置情報提供システムの構築等々、事業者が時間的・空間的・心理的な移動の障壁を自己改善していく仕組みを作り県外からや県内での移動の活発化を推進している。特に、バスの待ち時間が携帯で分かる BUS i t（バスイット）というシステムを導入してからは、外国人観光客も含めバスの利用者増に繋がったとのこと。

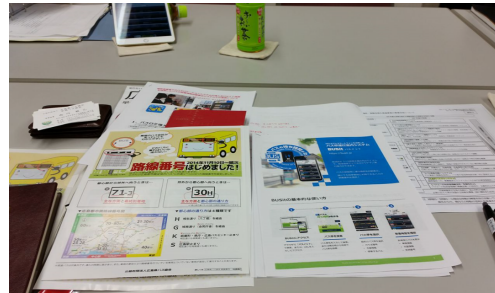
この BUS i t は、到着時間を初め運行ルートや運賃も表示でき、普段からバスを利用しない方も安心して利用でき、携帯電話はもちろんのこと、俗に言う『ガラケー』にも対応している。また、QRコードや NFC タグの読み取りアプリを起動させることもできるので、それらを内蔵した BUS i t ステッカーをバス停に張り、携帯電話をかざすだけで自動表示される。さらに、外国人観光客が自身のスマートフォンでステッカーにタッチすると、母国語の案内が自動表示され、現在、英語、韓国語、中国語に対応しているとのこと。

路線バスは交通渋滞の緩和、交通事故の抑制、環境負荷軽減にもつながり、重要な公共交通機関の一つである。近年のモータリゼーションの急速な進展により、バスを初めとする公共交通機関の利用者は年々減少している。また、道路状況や多客時、天候などでバスの到着時刻がおくれることも多々あり、不採算路線は減便や路線変更されるなど、利用者にとっては不便になり、路線バス離れが進んでいる。

バスを利用する市民の方からは、「5分、10分遅れはよくあります。かと思えば、まれに時刻どおりに来ることがあって、乗りおくれたことがあった」という話をよく伺う。私もバスを利用することがあるが、やはり時刻どおりにバスが来ることが少なく、バス停で時刻ちょうどに待つ場合は、既に行ってしまったのか、まだ遅れていて来ていないのか心配になった経験が多々ある。そういったストレスを嫌い、バスを敬遠し、車で移動することになっている潜在的な利用者も少なからずお

られるのではないかと。

そのようなことから、路線バスの利便性を向上させ、バス交通への利用者を確保し、バス路線を維持することは大変重要である。路線バスの利便性について考えた場合、主に運行時刻の定時性、運行頻度、運賃などが上げられる。特に、運行時刻の定時性の向上は、バスの遅延が減少し、待ち時間も減少する。路線バスの利便性向上の一助として、バスが現在どこを走っているのかを示すシステム、バスロケーションシステムの導入が全国的に進んでおり、釧路でも導入すべきシステムであると感じた。



神山プロジェクトについて

視察日：平成 29 年 5 月 24 日（水）

視察地：徳島県神山町

視察担当者：認定特定非営利活動法人グリーンバレー 理事長 大南 信也 氏

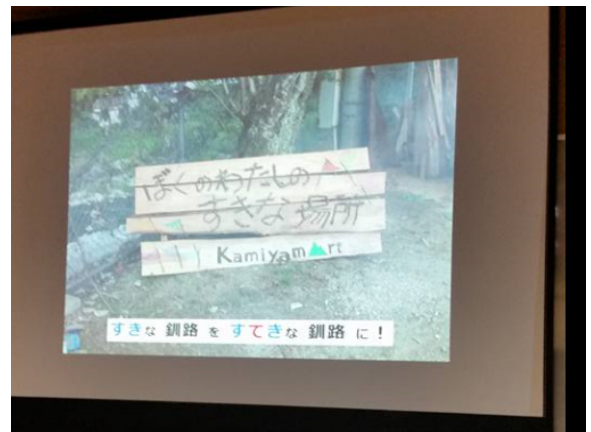
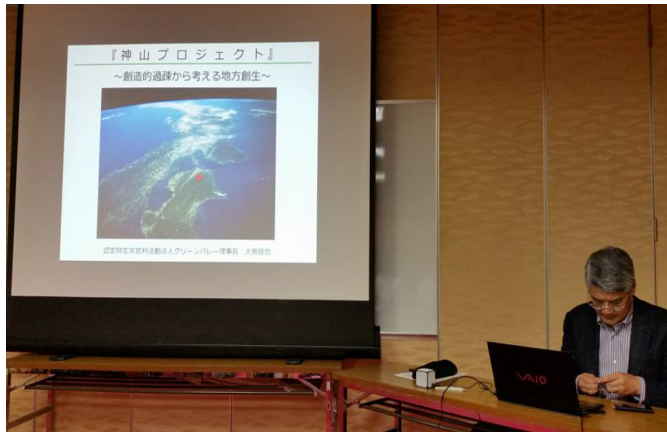
視察参加者：畑中 優周 大越 拓也（文責）

過疎地においては雇用や仕事が無く、若者が故郷に帰って来られない。移住者を呼び込めない、後継者が育たないなど、特に雇用における課題が山積である。神山町の移住交流支援センター事業をグリーンバレーが 2008 年から請け負い、神山プロジェクト（創造的過疎から考える地方創生）と銘打って、サテライトオフィス（場所を選ばない働き方が可能な企業を誘致）、ワークインレジデンス（仕事を持った移住者の誘致）、神山塾（職業訓練による後継者の積極的な育成）の取り組みを行っている。

「ワークインレジデンス」とは、クリエイター（職人）を移住者誘致のターゲットとし、住民自身がクリエイター移住者候補を選び、空き家に住んでもらうという取り組み。このワークインレジデンスで空き家を利活用し、定住がより安定するのが狙いである。

まちの状況を考え、どんなまちにしたいか、そのためにどんな人に来てもらいたいかという移住者を選ぶため、自分達で今後のまちの方向性を考え、その方向性は「創造的過疎」である。創造的過疎とは、過疎化の現状を受け入れ、数ではなく内容を改善。外部から若手やクリエイティブ人材を誘致することによって人口構成の健全化を図るとともに、ICT インフラ等を活用し、多様な働き方を実現できるビジネスの場としての価値を高めることによって、農林業のみに頼らないバランスの取れた持続可能な地域を目指している。

サテライトオフィスやワークインレジデンスを通じて集まった企業やクリエイターを生かして、神山塾という人材育成のプログラムを行なっている。これまで、100 名以上が卒業し、約半数以上が神山町に移住している。また、移住を希望する人に、一定の期間、神山町での暮らしや技術習得等を支援し、職となるものを見つけてもらう。神山塾で経験を積み移住者となった人たちが、新たな移住者の雇用の場を創出したり、神山塾で指導者側になることもあり、言わば、職の域内循環が行われている。



徳島県内には多数の首都圏の企業がサテライトオフィスを開設。県内のどの地域でも光回線によるインターネットが可能となっており、その中で神山町は豊かな自然環境と情緒あふれる古民家が多く存在していることが理由で、古民家を活用した IT 企業のサテライトオフィス、外国人も含む移住が増えているそうです。

また、町の将来にとって、必要と思われる働き手や起業家を逆指名することにより、事前に職種を特定することにより、町のデザインが可能になったそうです。このような取り組みは、市全体には難しいですが、地域を限定し例えば音別地区等に導入を検討すべきではと考えます。